



せがさきの風



〒236-0037 横浜市金沢区六浦東三丁目2番1号
 <TEL>781-2446・2447 <FAX>701-4892
 <MAIL> y3segasa@edu.city.yokohama.jp
 <HP> <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/>

キンモクセイの香り

～ 家族を知る 子どもを知る ～

学校長 大塚 ちあり

毎年秋になると、街角でふっと懐かしい花の香りに出会います。キンモクセイの花の香りです。この香りには忘れられない思い出があります。

私が学生の頃の事です。引っ越したばかりの祖父母の家の玄関先に、大きなキンモクセイの木がありました。秋になって花が咲き、その小さくて愛らしいオレンジ色の花となんとも言えない甘い香りが大好きになりました。初めて与えられた自分の部屋に少し持って行って、花瓶に入れて飾りました。自分の部屋が素敵な香りに包まれてとても嬉しくなりました。ところが、翌日学校から帰宅してみると、花瓶にさしたキンモクセイの花がないのです。不思議に思いながらも、もう一度キンモクセイを花瓶にさしました。ところが翌日も帰宅してみるとキンモクセイの花がないのです。不思議なことが二日も続いたので、母に「キンモクセイの花を知らない。」と聞いてみました。すると母は、ちょっと困った顔をして「ごめんなさい。お母さんが捨ててしまったの。キンモクセイの香りが苦手なの。ごめんね。」と話してくれました。こんなに素敵な香りを母が嫌いだったなんて、花が咲いている間母は辛い思いを抱えていたなんて、心底びっくりしました。

母が大好きだった私は、知らない母の一面を見たようで、なんだか嬉しくなったことや、キンモクセイの花が咲く間そっと我慢している母を気遣って、帰宅すると玄関先で良い香りを胸一杯に吸い込んだ後、さっと玄関のとびらを閉めたことが、毎年キンモクセイの香りに出会う度に、忘れられない思い出として蘇ってくるのです。キンモクセイの花を花瓶にささなければ、知ることのなかった母の思い。こんなに毎日身近にいても、知らないことがあるということも、自分が心地良いと思うものを母は辛いと感じていることも大きな驚きでした。そう思うと、我が子をはじめ家族や学校で出会う子どもたち、保護者の方々や地域の方々、職員とのおしゃべりや世間話が愛おしく思えてきます。ささやかな会話の中に、その人の思いを知る機会をいただいていることを、この思い出が教えてくれるように思うからです。

今、校庭ではスポーツフェスティバルに向けて応援団の子どもたちの声が響き、異学年の子どもたちが力を合わせて取り組む「なかま種目」や、2学年合同で演技をする「大山太鼓」「ライジング」「ソーラン節」の発表に向けて、上学年と下学年の子ども達が目と目を合わせて声を掛け合ったり肩を組んだりして練習に励み、学び合う姿が毎日のように見られます。

運動が得意な子もいれば、少し苦手意識をもっている子、知らない上級生と話すことに緊張感を感じている子、家族が見に来てくれることを心待ちにしている子、絶対勝つぞと心燃やしている子、演技のお師匠さん（瀬小では、2学年合同演技の練習で、上学年の子が下学年の子とパートナーになり、お師匠さんとして下学年の子に演技を教える伝統があります。）が大好きになり、休み時間には校庭でわくわくしながらお師匠さんを待っている子など、実に様々な子どもたちの姿があります。

そんな子どもたちにとって、スポーツフェスティバルは12月のふれあいフェスティバルとともに、自分の姿をたくさんの方々に見ていただく大事な行事です。この機会を、保護者の皆様・地域の皆様には、子どもたちを、今よりもう少しだけ「よく知る機会」にさせていただけたら有り難いと思います。

スポーツフェスティバルを目前にした、子どもたちの思いは？ かかわっているお師匠さんや弟子の子どもたち、どんな会話をしているのかな？など思いを巡らせて、当日見せる子どもたちの様々な表情や仕草から、子どもの思いにそっと近づく楽しみを味わっていただきたいと思います。

そして、10月3日の本番では、ぜひ、「こんなあなたを見つけたよ。」と子どもたちに直接声をかけて、エールをプレゼントしていただけたら、どの子もきっと励みになって更に張り切ることができることと思います。子どもたちにとって思い出深い一日になりますよう、ご協力ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。